

広島商船高等専門学校		開講年度	令和03年度 (2021年度)		授業科目	技術者倫理
科目基礎情報						
科目番号	1943009			科目区分	専門 / 必修	
授業形態	講義			単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	電子制御工学科			対象学年	4	
開設期	後期			週時間数	2	
教科書/教材	小出泰士「JABEE対応 技術者倫理入門」(丸善株式会社), 参考書: 北原義典「初めての技術者倫理」(講談社)					
担当教員	成清 勝博,梶原 和範,大和田 寛,酒池 耕平,浜崎 淳,綿崎 将大,石橋 和葵,峠 正範,大高 洸輝,吉田 哲哉					
到達目標						
(1) 技術者倫理について理解する。 (2) 技術者が社会に負っている責任感を身につける。 (3) 技術者倫理に関する事例に対して、実践的対応に必要な知識を身につける。 (4) 倫理的問題に対して、広い視野で多角的に取り組み、問題を解決できる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	技術者倫理において、ある事例について自分の意見を述べるができる。		技術者倫理とは何かを理解できる。		技術者倫理とは何かを理解できない。	
評価項目2	技術者が社会に負っている責任感を身につけ、それにしたがって行動できる。		技術者が社会に負っている責任感を身につけている。		技術者が社会に負っている責任感を理解できない。	
評価項目3	技術者倫理に関する事例について実践的対応に必要な知識を見つけて行動できる。		技術者倫理に関する事例について、必要な知識を身につけ、説明できる。		技術者倫理に関する事例について、必要な知識を身につけていない。	
評価項目4	倫理的問題に対して幅広い視野で多面的に取り組み、問題を解決できる。		倫理的問題に対して幅広い視野をもって多面的に見ることができる。		倫理的問題に対して幅広い視野を持っていない。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	授業の目的は(1)社会人としての規範意識を養うこと、(2)人文・社会に関わる広い視野を養い、国内外の多様な状況を理解できる知識を身につけること、(3)修得した知識・技術を基に、問題点とその原因を発見できる基礎的能力を身につけることである。本科目では技術が社会や自然に及ぼす影響や効果、技術者が社会に対して負っている責任に関する理解を深める。技術者が直面する倫理上の問題に対して広い視野で考え、社会からの期待に答えるべく行動できる技術者が必要とする倫理観を身につける。					
授業の進め方・方法	固有教室にて、教科書または補助プリントを用いる。					
注意点	シラバスの項目・内容を確認して、教科書等で予習しておくこと。					
授業の属性・履修上の区分						
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	1. ガイダンス		1-(1) シラバスによって授業内容・予習復習・評価方法について説明をする。	
		2週	2. 技術者のアイデンティティ説明責任		2-(1) 技術者に関する倫理の概要について理解できる。	
		3週	2. 技術者のアイデンティティ説明責任		2-(2) 技術者の説明責任について、事例を基にその内容理解と考えを深めることができる。	
		4週	3. 技術者資格・技術者倫理		3-(1) 技術者資格と技術が社会や自然に及ぼす影響や効果について理解する。 3-(2) 技術者が社会に対して負っている責任に関する理解を深めため、事例を学び、その事実関係を理解する。	
		5週	3. 技術者資格・技術者倫理		3-(3)技術者が直面する倫理上の問題に対して広い視野で考えるため、事例を学び、技術者が必要とする倫理観の必要性を理解する。	
		6週	4. リスク		4-(1) リスクと安全性の関係を理解できる。 4-(2) 安全性を高めるための設計思想を理解できる。	
		7週	4. リスク		4-(3) リスク・マネージメントの考え方を理解できる。	
		8週	5. 知的財産権		5-(1) 知的財産権制度の基本的な考え方を理解している。	
	4thQ	9週	5. 知的財産権		5-(2) 知的財産権に関する法的根拠について理解し説明できる。 5-(3) 特許や職務発明について発明者や組織、社会の利益を考慮した考察ができる。	
		10週	6. 内部告発		6-(1) 内部告発と守秘義務を理解できる。 6-(2) 内部告発者の保護を理解できる。	
		11週	7. 製造物責任		7-(1) 製造物責任法について内容を理解する。 7-(2) 製造者の瑕疵による被害の発生事例を知り、その問題点を指摘できる。 7-(3) 製造者や販売者が生じた被害に対する賠償と社会的責任について理解できる。	

		12週	8. 予防原則	8-(1) 四大公害病について事例研究をおこないその実態が把握できる。 8-(2) 四大公害病の発生原因を考察し予防策について提案できる。
		13週	8. 予防原則	8-(3) 企業倫理と公害病について考察し予防策について提案できる。
		14週	9. 費用便益分析	9-(1) 事例に対しての費用便益分析を理解できる。
		15週	9. 費用便益分析	9-(2) 結果主義的な考え方と人間尊重の考え方が理解できる。
		16週	10. 国際化	10-(1) 宗教による価値観の違いを理解する必要性が分かる。 10-(2) 国家による安全基準の違いが理解できる。

評価割合							
	定期試験	小テスト	レポート	発表	成果品・実技	その他	合計
総合評価割合	0	0	50	0	0	50	100
基礎的能力	0	0	20	0	0	20	40
専門的能力	0	0	30	0	0	30	60
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0